

プラネタリーヘルス： 地球をまもってヒトをまもる

長崎大学
学長特別補佐
熱帯医学・グローバルヘルス研究科

渡辺知保

Question: 国難級災害を乗り越えるとはどんなことか
～こわれない仕組みとは何か

* プラネタリーヘルスとは,
“人間（社会）の健康”+“地球の健康”, 両者は相互依存.

* 両者の乖離（実体・議論）が, 双方のレジリエンスを失わせた.
一人間の困り込み.

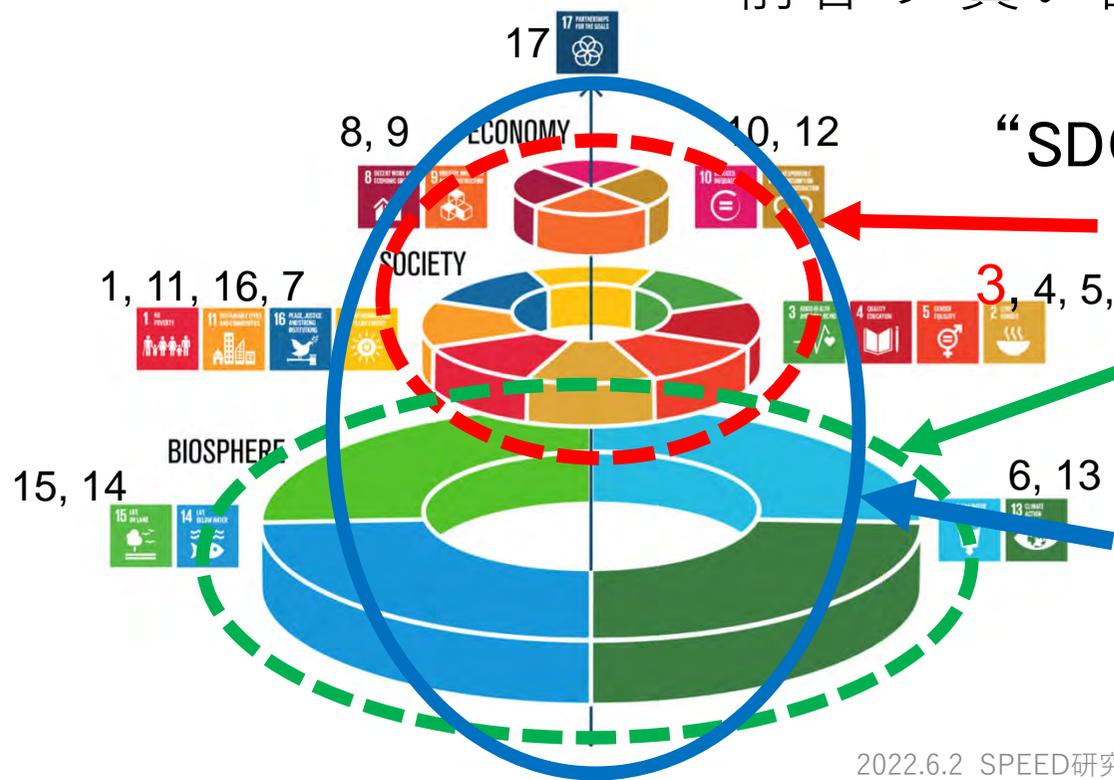
* レジリエンスの改善・創出に向けて
“こわれない仕組み”への提案

プラネタリー・ヘルスとは？



プラネタリーヘルス(Whitmee et al., 2015, Lancet) = 地球(生態系)の健康 + 人間(と文明)の健康

- ・ 2者は独立ではなく相互依存的(vs WHO's def)
- ・ 前者の“賢い管理(stewardship)”で、後者を実現。



“SDGsのウェディング・ケーキ”

上・中層の目標群:「人間の健康」の持続性

例えば, ソーシャル・バウンダリーズ(Raworth, 2011)

下層の目標群:「地球の健康」の持続性

例えば, プラネタリー・バウンダリーズ(Rockstrom, 2009)

プラネタリー・ヘルス:

全層の持続を可能にする関係(を探る)

→ SDGsの“ゴール”間の関係でもある

* プラネタリーヘルスとは、
相互依存する“人間（とその社会）の健康” + “地球の健康”

プラネタリーヘルスの実現（復興？）は、
遠い未来の理想像であると同時に、
喫緊の課題群に取り組む際のアプローチ（フレームワーク）と考えるべき。

Question: 国難級災害を乗り越えるとはどんなことか
～こわれない仕組みとは何か

* プラネタリーヘルスとは,
“人間（社会）の健康”+“地球の健康”, 両者は相互依存.

* 両者の乖離（実体・議論）が, 双方のレジリエンスを失わせた.
一人間の困り込み.

* レジリエンスの改善・創出に向けて
“こわれない仕組み”への提案

両者の乖離（議論・実体）が、双方のレジリエンスを失わせた
一人間の“自己囲い込み”

- * ミレニアム生態系評価（前のスライド）
人類が環境への負荷とトレードオフでWellbeing を獲得。
- * なぜそのような状況に？
 - ・ 物理的乖離（i.e., ”都市“と“大自然“, 生産と消費の場）
 - 意識・認識の隔離，自然的要素・“想定外”の締め出し
 - 実際は，人間社会の“囲い込み”（外部情報・外部での攪乱への無知）
 - ・ 技術による制御・克服の成功体験
 - “良いもの・仕組みを作り，それがもたらす良い面だけを見る”
 - i.e., 人口調節・食糧増産（緑の革命，品種改良・遺伝子改変）
 - ・ 環境の改変可能性・汚染制御
 - できたものの使用以降のプロセスとその結果に無頓着か，外部に転嫁）
 - ex) プラネタリーバウンダリーズの多くの領域＝物質局在のもたらす弊害。
 - ・ 成功体験は Scarce world におけるもの。Full World での保証なし

Question: 国難級災害を乗り越えるとはどんなことか
～こわれない仕組みとは何か

- * プラネタリーヘルスとは,
“人間（社会）の健康”+“地球の健康”, 両者は相互依存.
- * 両者の乖離（実体・議論）が, 双方のレジリエンスを失わせた.
一人間の困り込み.
- * レジリエンスの改善・創出に向けて
“こわれない仕組み”への提案

レジリエンスの改善・創出に向けて こわれない仕組みへの提案

- * 人間社会の健康と地球の健康との“乖離”を縮め，消失に向けて努力する。
 - ・ 創出する製品・制度がもたらす多様なインパクト（直接の目的以外，あるいは外部とされてきた空間・時間への）への科学的想像力。
 - 地球の意識（earth consciousness), 将来世代, システム（ズ）思考
- * “外部”を設定しない。競争を無条件に“良い”としない。
 - “外部”とされてきた時間・空間の状況を把握し，共有する。
 - 社会的な外部，国際的な外部（“辺縁部”に限らない），生物学的な外部
 - レジリエンスの向上→“外部”のレジリエンスも向上するか？
 - 例）森林の劣化→気候変動のインパクトを助長。
 - 土地の改変・利用→野生動物への環境ストレス（生息地の劣化，汚染など）
 - パンデミックのspillover を助長。
 - ・ 人新世，あるいは，“full world”（これまでとは異なる状況）にいることの自覚。

レジリエンスの改善・創出に向けて Transformationの必要性

- * 社会のレジリエンスの向上に，社会のTransformationは不可欠
 - ・ これまでのやり方自体がさまざまな危機を招いている
←人新世になって，舞台が様変わりした。
 - ・ すでにいくつかのPlanetary Boundariesは超過と判断されている。
- * Transformationへのバリア
 - ・ 現行の価値体系を解体することが求められる。
 - ・ コストとベネフィットを考えるとときの枠組み自体が現行の価値体系の枠内。
- * 大きな災害からの修復プロセスに transformation/resilience向上を組み込む。
 - ・ 東日本・・・節電への抵抗↓，原子力発電への意識
 - ・ COVID-19・・・テレワーク，リモート会合の活用，
個人的な時空間の見直し・投資。
 - ・ 人間を“囲い込まない”社会像の提示

人間中心の社会を持続したいなら、
人間中心主義を捨てる

No one left behind から

No one species left behind へ

(心意気として・・・という意味で)